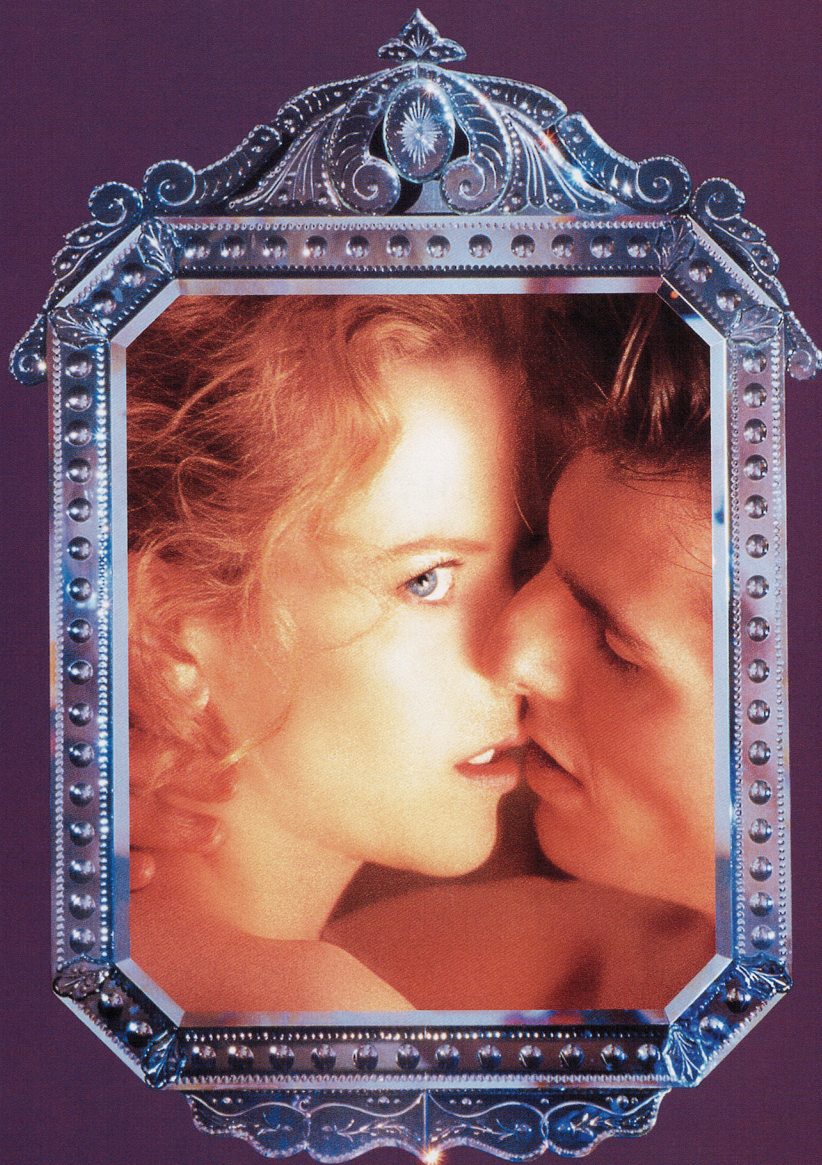




クルーズ
キッドマン
キューブリック

アイズ ワイド シャット

ワーナー・ブラザース映画提供 トム・クルーズ ニコール・キッドマン スタンリー・キューブリック作品 "EYES WIDE SHUT" シドニー・ポラック マリー・リチャードソン 脚本スタンリー・キューブリック フレデリック・ラファエル 原典アーサー・シュニッツラーによる "Traumnovelle" 製作総指揮ジャン・ハーラン ライティング・カメラマンラリー・スミス 美術レス・トムキンス ロイ・ウォーカー 編集ナイジェル・ゴルト 製作・監督スタンリー・キューブリック オリジナル・サントラ盤:ワーナーミュージック・ジャパン 原作/スクリーンプレイブック:角川文庫刊 www.eyeswideshut.com

WARNER BROS.
A TIME WARNER ENTERTAINMENT COMPANY
©1999 Warner Bros. All Rights Reserved



■スティーヴンスビルバーグ監督
「彼はだれのまねもしなかったがわれわれはみな彼を模倣しようとした」
■ロードショー 6月号
世界中が偉大な監督を惜しんでいるもののクレイト・マスタの作品の
最後の1本の映画はまだ見られずに残っており
世界中が楽しむために用意されているのだ

見てはいけない愛。

EYES WIDE SHUT

そこにあるのは、見ては いけない愛。天才監督キューブリック が眠っている欲望をつきつける

『この作品が自分の最高傑作だ』——スタンリー・キューブリックが自らそう語った「アイズ ワイド シャット」が、ついに公開される。撮影に18か月、編集に約1年をかけたこの作品は、「フルメタル・ジャケット」以来12年ぶりの新作。完成直後の99年3月7日、キューブリックはイギリスで死去した。
「2001年宇宙の旅」「時計じかけのオレンジ」「シャイニング」「フルメタル・ジャケット」…時代を予見していたのか、それとも彼が時代を創ったのか、キューブリックが提示したテーマは、つねに模倣され、追従され、無数のバリエーションを生み出してきた。そのキューブリックが、最後の作品で選んだテーマは愛。トム・クルーズとニコール・キッドマンという、もっともハリウッド的なカップルを夫婦役で主演に据え、濃厚なセックスシーンを演じさせたことでも話題を呼んだ。
撮影・編集は異常なまでの秘密主義で進められ、99年3月2日、キューブリック死去のわずか5日前にニューヨークで行われた初試写を見たのは、クルーズとキッドマン、そしてワーナー・ブラザーズの2人の会長テリー・セメルとロバート・デイリーの4人のみ。映写技師もフィルムをセッティングした後は映写室を出されるという極秘試写だったという。

クルーズとキッドマンが加担したキューブリック最後の悪たくみ

「アイズ ワイド シャット」は、キューブリックがこの世に残した最後の罠。クルーズとキッドマンという、キューブリック作品でなければ決して共演が実現することはなかったであろう二人が、18か月の歳月を費やして加担した、世にも賛沢で危険な悪たくみだ。『あの二人が、何か悪いことをしようとしている。とてつもなく妖しい出来事が起きようとしている…。』世界一有名なカップルの扇情的なラブ・シーンを見に来たつもりで観客は、みずからの奥底に眠る欲望と妄想を見せつけられ、セックスの深淵を覗かされることになる。

クルーズとキッドマンが演じるのは、ニューヨークに住む医者とその妻。お互いが、相手に言えない性的な欲求あるいは妄想を持っているという、大まかなストーリーラインしか、関係者にも明かされていない。『幸福なカップルに存在するセックスについての矛盾した精神状態を探り、性的な妄想や実現しなかった夢を現実と同じくらい重要なものとして扱おうとした』というのがこの映画に関するキューブリックの公式コメントで、嫉妬や妄想が重要なテーマになっているという。

もっと深く、もっと奥へ——セックスは、入り口にすぎない

クルーズとキッドマンが鏡の前で抱き合い、激しくキスをかわす様子が延々と映し出されるだけの、ナレーションも台詞も一切ない劇場用の予告編はセンセーションを巻き起こし、過激なセックス描写が公開前から世界中で話題の的となった。しかし、セックスそのものは単なる入り口にすぎない。映画を見ることによって、自分の奥に眠っている何かが暴かれ、犯される——「アイズ ワイド シャット」の観客が否応なしにさらされるのは、そんな体験だ。

映画館に入る前と出た後で、同じ自分であることを観客に許さない……そんな映画を作ったのはキューブリックだけであり、だからこそ彼の映画は時代を超えて人々を魅きつけ、さまざまな分野に影響を与え続けてきた。

死因も遺言もいっさい明かされていない巨匠の死。しかし、キューブリックは世界中の観客に遺してくれた。彼が最後に仕掛けたショッキングで妖しい罠に墜ちるという、もう二度と味わうことのできない喜びを…。

つねに時代を先取りし続けてきた巨匠キューブリックが最後に選んだテーマは“愛”

7月31日(土)よりロードショー!

特別鑑賞券絶賛発売中(一般¥1600/ペア¥3000)

有楽町マリオン新館7F
丸の内ルーブル
03(3214)7761

渋谷東急文化会館1F
渋谷パステオン
03(3407)7219

新宿御苑明町TOKYU MILANOビル
新宿ミラノ座
03(3202)1189

池袋東急
03(3971)2727

上野東急
03(3831)6620

吉祥寺サンロード・西友先
吉祥寺パウスシアター
0422(22)3555

地下鉄センター南駅・駐車場完備
109シネマス港北
045(948)5151

町田中央通り・東急ビル2F
まちだ東急シネマ
0427(22)2255

小田急本厚木ミロード2・7F
厚木シネマミロード
0462(30)7143

本川越駅徒歩5分
川越シアターホームラン
0492(22)1211

千葉三越そば・タワラヤうら
シネマックス千葉
043(202)0088